年間授業計画　新様式

高等学校 令和５年度（２学年用） 教科 国語 科目 文学国語 年間授業計画

単位数： 2 単位

対象学年組：第 2 学年 A 組～ F 組

使用教科書：（ 筑摩書房「文学国語」 ）

教科 **国語** の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 **文学国語** の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。	「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。	言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。

	単元名・指導項目・内容	単元の具体的な指導目標	評価規準	領域			観点別			配当時数
				話聞	書	読	知	思	態	
1学期	「プラスチック膜を破って」 梨木香歩	周りの情報を遮断して個々人の世界に閉じこもる「プラスチック膜」という比喩と、それが破れて感情が伝わり合う表現の意味を理解する。	【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。			○	○	○	○	4
	「情報の彫刻」 原研哉	電子書籍やタブレット端末等、メディアの非物質化が進む現代だからこそ、「紙」の書籍の魅力が一層生きてくることを、食事との類似性を通じて理解する。			○		○	○	○	5
	定期考査				○		○	○		1
	「山月記」 中島敦	人間が虎に変身する、というフィクションを通して、人間の自我をめぐる葛藤と人間という社会性は何によって獲得されていくものなのかという視点を学ぶ。		○			○	○	○	7
	「ラムネ氏のこと」 坂口安吾	当然のように存在する事象の背後には、何かに徹することに生涯を捧げた先人がいるという事実を通して、この世界があることと人が生きることとの関係について理解する。			○		○	○	○	5
	「永訣の朝」 宮沢賢治	オノマトペや比喩を効果的に使いながら、妹の死を昇華させようとする作者の表現を通じて、生命と宗教との哲学観を学ぶ。			○		○	○	○	3
	定期考査				○		○	○		1
2学期	「こころ」 夏目漱石	Kの死と私の死とを通じて、なぜ二人が自殺ということを選ばなければならなかったかを、自我のあり方と利己的な遺伝子と社会性との関連を踏まえながら、明治という近代が当時の人々にもたらした生き方の変化について学んでいく。	【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。	○			○	○	○	12
	定期考査				○		○	○		1
	「化け物の進化」 寺田寅彦	「化物がないと思うのはかえって本当の迷信である」とする、一見すると意味の通らない主張が、実は科学的な知識と経験に基づいた逆説であることを理解する。		○			○	○	○	5
	「建築論ノート」 松山巖	生活を営んできた建物を容易に壊しては作り直す、という姿勢が人間にもたらすものを、トマス・ハーディの詩の引用、そして比喩とレトリックによって、その破滅性を学ぶ。			○		○	○	○	5
	「私の個人主義」 夏目漱石	英国留学に行って神経衰弱にまでなった日本人である筆者が、自我というものを持たなかった前近代から、個人主義という独自の生き方を見出したことを学ぶ。				○	○	○	○	4
	定期考査				○		○	○		1
3学期	「死者の声を呼ぶ小舟」 小川洋子	人々が打ちのめされ、破壊される悲劇を前に、死者の声、声にならない声を伝えることを通じて、文学だけが持ち得る可能性について理解する。	【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 【思考力・判断力・表現力等】 「書くこと」、「読むこと」の各領域において、深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をも深め、言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりする。	○			○	○	○	5
	「能　時間の様式」 杉本博司	「記憶」と「時間」をテーマに、墓石の写真、ミイラ、そして能へと展開される論旨を通して幾種類もの時間が同時並行に流れる能の奥深さを学ぶ。			○		○	○	○	6
	「捨てない女」 多和田葉子	ゴミと格闘する「わたし」という、一見突拍子もない物語を通して、筆者の創造力と言葉への熱い思いを読み解き、その世界観を理解する。		○			○	○	○	4
	定期考査				○		○	○		1
										合計 70